

神奈川の政策紹介



神奈川芸術劇場 (KAAT)

かながわ移動観光大学

かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア

神奈川県の新しい施策の中から、大学をはじめとしたさまざまなネットワークを生かして展開されているものを紹介する。昨年度開館し、演劇を中心に神奈川県からの新しい文化の発信をスタートさせた<神奈川芸術劇場(KAAT)>、大学と連携して神奈川の観光を発展させる新機軸を構築する<かながわ移動観光大学>、そして大学と県が連携した実行委員会形式で開催され、毎年たくさんの入場者でにぎわう<かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア>の3つを取り上げる。

神奈川芸術劇場(KAAT)における 「モノ」「人」「まち」づくり

神奈川県県民局くらし文化部文化課

◆ 神奈川芸術劇場(KAAT/カート)とは

神奈川芸術劇場(KAAT)は、独立行政法人都市再生機構が横浜市中区山下町において、横浜山下町地区第一種市街地再開発事業として建設を行い、平成22年7月に竣工し、本年1月にオープンしました。建物はNHK横浜放送会館との合築になっています。

(1) 劇場の目的と役割

KAATは、県内に不足している舞台芸術専用的高機能な施設として新設したもので、演劇、ミュージカル、ダンス等の良質な舞台芸術作品を県民の皆さんに提供していきます。

また、県民ホール本館(以下「本館」という。)の大ホールと小ホールの機能を補完する中規模ホールとして整備しており、本館と一体運営することにより、県の文化芸術の広域拠点としての役割を担っています。

(2) 劇場のコンセプト

神奈川県では、「神奈川県文化芸術振興条例」を定め、その中で、「県は、自らの設置等に係る文化施設を地域の文化活動の拠点とし、当該文化施設の文化芸術の鑑賞、活動及び交流の場としての機能の充実を図るとともに、その特色を生かした文化芸術に関する人材の育成、教育、普及啓発等を積極的に推進するよう努めるものとする。」としています。



神奈川芸術劇場(KAAT) 外観

KAATは、まさに、文化芸術の振興とそれを通じた地域の活性化を具体化していく上で、大きな役割を担う施設であり、「モノをつくる」、「人をつくる」、「まちをつくる」の「3つをつくる」をコンセプトとした「創造型劇場」を目指しています。

① モノを「つくる」～芸術の創造

ホール及び大・中・小スタジオ(稽古場)を創造の場・発表の場として活用し、演劇、ミュージカル、ダンスなどの舞台芸術を創造・発信します。県民の財産となるようなオリジナル作品を創造し、次代に引き継ぎます。また、県内外の類似施設と共同制作や巡回公演に取り組む等、連携・交流も進めていきます。

② 人を「つくる」～人材の育成

KAATの運営組織として舞台技術の部門を置き、舞台技術者、アートマネジメントなどの人材を育成するとともに、より良い作品創りのために劇場スタッフが施設利用者をサポートします。また、ホール及びスタジオで、プロからアマチュアまで幅広い舞台芸術活動が行われ、さまざまな交流が活発に行われることが期待されます。

③ まちを「つくる」～賑わいの創出

良質な舞台芸術の鑑賞機会の提供による集客とともに、創造活動に伴う人的な交流、県民の文化芸術活動の支援を通じた交流や、同じ建物内のNHK横浜放送会館との連携等により、賑わいや新たな魅力を創出し、地域の価値を高めます。



アトリウム

(3) 施設の概要

項目	内容
階数	地上10階、地下1階（NHK横浜放送会館（1階～3階）との合築）
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造
建築面積	約4,800㎡
延べ床面積	約18,600㎡
建物高さ	約50m（NHKアンテナタワーの高さを加えると105m）
防震・防音	免震構造、ホール及びスタジオは浮き構造
所在地	横浜市中区山下町281

(4) 施設の特徴

多様な演目に対応できる高度な舞台設備や開放的で親しみやすいデザインなど、県民の皆様の憩いの場となるよう工夫を凝らしています。

① ホール

最大約1,300席のホールは、さまざまな演目に対応できるよう、客席に「床昇降システム」を導入しており、演出プランに応じて、舞台を広げたり、平土間にしたり、客席の傾斜を変えたりすることが可能です。また、舞台芸術の発信拠点として、一体感のある劇場空間を生み出すために、客席から舞台までの最大視線距離に配慮（20m～25m程度）するなど、迫力ある舞台が鑑賞できるようになっています。さらに、多様で高度化する舞台演出、舞台美術に対応するため、奥舞台を持ち、高機能の吊り物バトンを数多く設置しています。



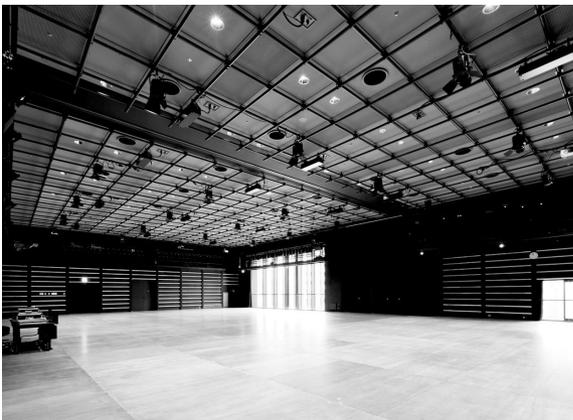
ホール

② 大スタジオ

ロールバック式の客席を備え、小劇場（約220席）として演劇、パフォーマンスなどの公演が行えるほか、稽古などさまざまな目的にも使用できる多目的スタジオ（約400㎡）です。本館大ホールの舞台とほぼ同じ大きさで作られており、大ホールで行う公演の稽古等、質の高い創造・発信活動に寄与します。

③ 中スタジオ・小スタジオA

それぞれ稽古場としての利用ができるほか、中・小スタジオ間の可動間仕切りを取り払うことにより、小規模な公演の実施も可能となっています。



中スタジオ・小スタジオA

④ 小スタジオB（アトリエ）

演劇、ダンスなどのための稽古場で、スタジオ棟の最上階にあり、明るい日差しが入るなど、創作のための快適な場を提供します。

(5) 劇場の管理運営

K A A Tの管理運営にあたっては、平成21年9月県議会定例会において議決を得て、K A A Tを含む「県民ホール」の指定管理者として、公益財団法人神奈川芸術文化財団を指定し、平成22年4月から指定管理者制度を導入しました。

同年4月には、演出家の宮本亜門氏が芸術監督に就任し、今年1月には施設がオープンしました。オープニングラインナップには、日本文学の限らない可能性にチャレンジする「NIPPON文学シリーズ」として、三島由紀夫原作の舞台化に挑戦した「金閣寺」をこけら落としに、三好十郎の戯曲である「浮標（ふい）」といった演目を上演しました。

また、創造型劇場として、自主事業に力を入れており、4月には、劇作家、演出家、映画監督である、三谷幸喜作・演出の演劇「国民の映画」の上演、第60回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した、前川知大作・演出の劇団イキウメの演劇「散歩する侵略者」の上演を行ったほか、本館との合同企画で、劇場を広く公開し、舞台裏などを実際に体験できるバックステージツアー等を行う「オープンシアター」も開催しました。

さらに、5月には、神奈川県内で活動するアマチュア団体等と連携して、神奈川県演劇連盟の合同公演、日本舞踊協会神奈川県支部の公演、神奈川県芸術舞踊協会の公演を、6月～7月には、宮本亜門芸術監督演出により、神奈川芸術劇場初のミュージカル公演である「太平洋序曲」や、「ス

ウィーニー・トッド」の公演を実施しました。

7月以降も、本邦初の「KAATストリートダンスフェスティバル」を開催したほか、提携事業として、現代美術作家の杉本博司氏が構成、演出、舞台美術、映像を手掛けた「杉本文楽 木偶坊(でくのぼう) 入(いり)情(なさけ) 曾根崎心中付(つけた)り観音廻り」や、人形劇俳優平常(たいらじょう)氏による人形劇「はなれ瞽女(ごぜ) おりん」など、多様な演目を上演しました。

今後も、やなぎみわ演劇プロジェクト「1924 海戦」、ロック・ミュージカル「ロッキー・ホラー・ショー」や、劇団チェルフィッチュ「三月の5日間」といった注目作品の公演を予定しています。

また、舞台技術者の養成を目的とした「舞台技術ワークショップ」や、国内外の芸術プロフェッショナルが集まる「国際舞台芸術ミーティング in 横浜」の開催などにも、引き続き取り組むとともに、NHK横浜放送局を始めとする様々な近隣施設との連携や、中華街等の魅力ある観光資源との協力を進め、地域の賑わいや新たな魅力の創出も図っていきたいと考えています。



ブロードウェイ・ミュージカル「太平洋序曲」
撮影：阿部章仁

◆ 今後のさらなる発展への方向性

KAATでは、コンセプトである「3つのつくる」の実現に向け、活気あふれる劇場を目指して、県民の皆様にも良質な文化芸術の鑑賞の機会を提供し、来場された皆様に、心が温かくなったり、街並みが一際輝いて見えたりするような、そんな感動をお届けしていきたいと考えています。